

第 I 部 シカゴ学派都市社会学

2. シカゴの発展とシカゴ社会学

都市の社会学的研究が始まったのは 20 世紀初頭のシカゴにおいてであった。それは半世紀で大都市に急成長したシカゴの成長を背景としている。シカゴ社会学の舞台としての大都市シカゴはどのように発展してきたのか。また、そのなかでシカゴ社会学が形成されていった経緯を見ていく。

(1) シカゴの発展

●シカゴ：中西部、ミシガン湖畔の大都市。

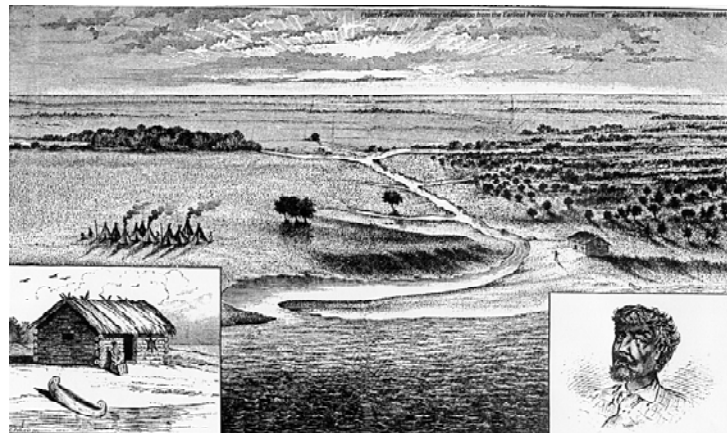
人口約 300 万人（1990 年 2,783,726 人、2000 年、2,896,016 人）。全米第 3 位。

Windy City, Great Country, My kind of Town, The City of Neighborhood.

Bulls (basket ball), Cubs and White Sox (base ball), Bears (football).

●シカゴの誕生物語

1673 年 フランス系カナダ人 Louis Jolliet とイエズス会の宣教師 Jacques Marquette が、シカゴを通過。



A.T.Andres "History of Chicago from the Ealiest Period to the Present Time." Chicago, 1884 In <http://www.chipublib.org/004chicago/timeline/dusable.html>

1779 年 黒人商人 Point du Sable が住み着き、先住民と毛皮の交易を開始。

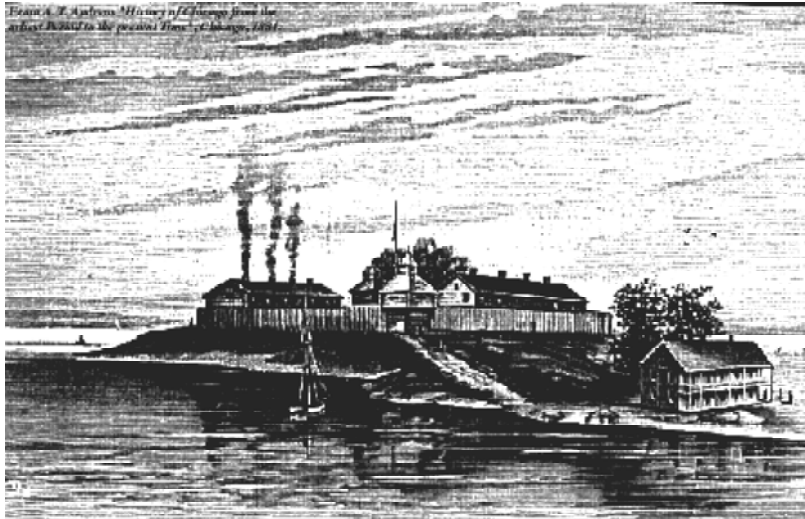
〈湖畔の港町として発展〉

1795 年 先住民がシカゴ川河口 6 マイル四方を連邦政府に割譲（グリーンビル条約）。

1804 年 ディアボーン砦設置（North Michigan Ave. and Wacker Drv.）

1812 年 ディアボーン虐殺事件。先住民が白人を急襲。背後に英国の影。

1816 年 ディアボーン砦再建。イリノイ州誕生



A.T.Andres "History of Chicago from the Ealiest Period to the Present Time." Chicago, 1884 In <http://www.chipublib.org/004chicago/timeline/ftdearborn.html>



- 1830年 碁盤状の街路整備。
- 1831年 人口 60 人。
- 1832年 ブラック・ホーク戦争（ウィスコンシンの西で、東進中のソーク族を殲滅）。
- 1833年 人口 350 人。町の自治権（township）を獲得。
- 1837年 シカゴ市誕生。人口約 4000 人の「大平原の港町」
- 1840年 人口 4,470 人。

.A.T.Andres "History of Chicago from the Ealiest Period to the Present Time." Chicago, 1884 In <http://www.chipublib.org/004chicago/timeline/plat.html>

●初期シカゴの発展

五大湖からミシシッピ川につながる水運の結節点として発展。

1850 年代に大陸横断鉄道の整備。シカゴは東部・南部と鉄道で結ばれ、鉄道網の結節点（railroad capital）として大都市への道を歩み始める。

1850年 人口 29,963 人。ガレア・アンド・シカゴ・ユニオン鉄道開通。

1852年 東部と鉄道で結ばれる。

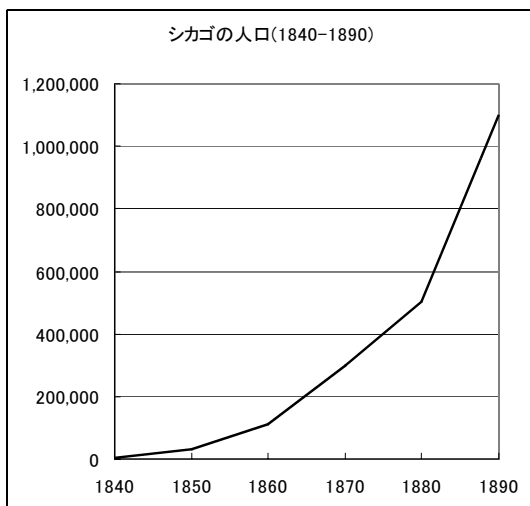
1860年 人口 112,172 人

1870年 人口 298,977人
 1880年 人口 503,185人
 1890年 人口 1,099,850人

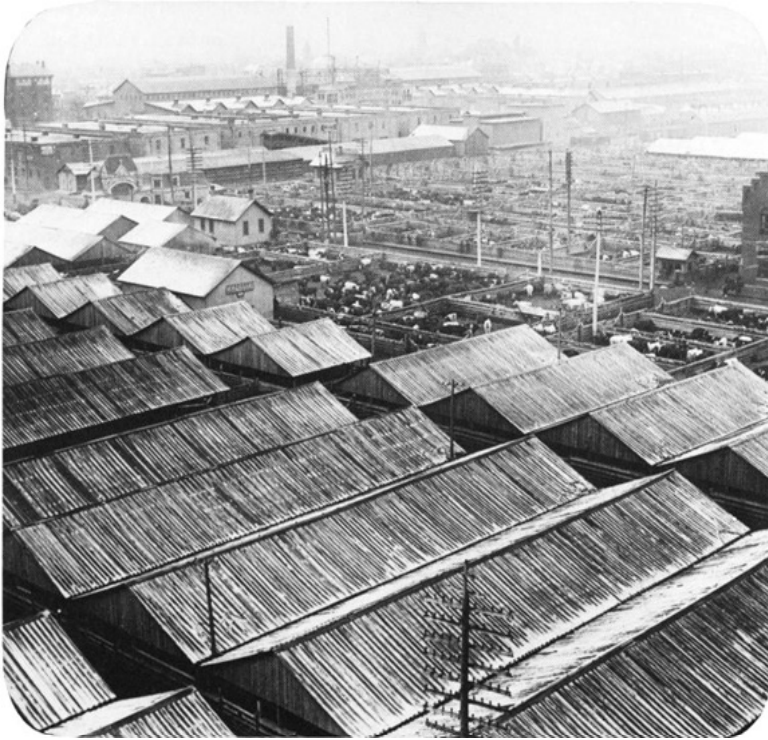


[http://memory.loc.gov/cgi-bin/query/r?ammem/gmd:@field\(NUMBER+@band\(g4061p+rr004140\)\)](http://memory.loc.gov/cgi-bin/query/r?ammem/gmd:@field(NUMBER+@band(g4061p+rr004140)))

ガレナ・アンド・シカゴ・ユニオン鉄道路線図



中西部の穀倉地帯から、小麦、トウモロコシ、食肉などを集荷。
 シカゴで加工・包装されて東部に出荷された。
 1865年には、ユニオン・ストックヤード（巨大な家畜置き場）が操業開始。
 1871年には、50万頭の牛と240万頭の豚を受け入れていた。



http://www.lib.uchicago.edu/e/spl/centcat/city/city_img62.html

シカゴのユニオン・ストックヤード（撮影時期不明）

五大湖を通じて鉄鉱石・木材が運び込まれた。
鉄・・・製鉄・機械（鉄道車輛・農機具）の工業原料。
木材・・・工場や住宅の建材、鉄道の枕木。
農機具・鉄道車輛などが、シカゴの製造業の基礎をなす。

東部からは資本と労働力が流入。
シカゴ市民の約半数は、外国からの移民。

1850年代～60年代：ドイツ、アイルランド、イングランド、スコットランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、フランスなどから移民が流入。
民族ごとに集まって住み、出身国の言語で生活することができた。

1850年代・・・初期の郊外住宅地の発展。エバンストン、レイク・フォーレストなど。
排水問題→都市のかさ上げ工事（1855年～）。
困難に果敢に立ち向かうシカゴの精神を伝えるエピソードとして語り継がれる。

●シカゴ大火

1871年10月、シカゴ大火。木造建築物が密集していたシカゴ中心部をなめつくし、市民の約3分の1が焼け出された。

出火地点は、シカゴ市南西部デ・コヴァン街のオレリー夫人の家。

出火原因は、オレリー夫人の牛がランプを干し草に蹴り込む。

南西の風にあおられて、都市中心部に広がる。

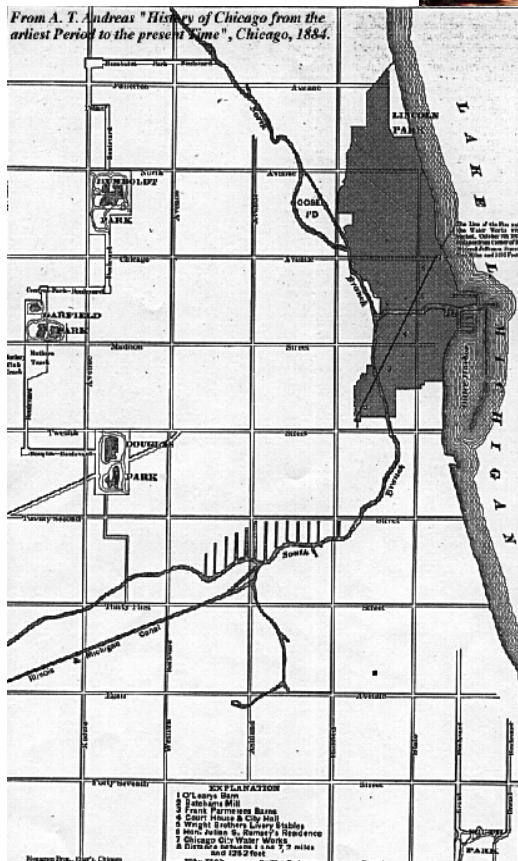
中心部で焼け残ったのは「ウォータータワー」だけ。1869年につくられた給水塔。現在でも、ウォータータワーは水道局の施設兼観光案内所として使われている。



<http://www.chicagohs.org/fire/oleary/pic0033.html> (1872年のリソグラフ)



Julia Lemos's "Memories of the Chicago Fire," 1912
<http://www.chicagohs.org/fire/witnesses/pic0178.html>



Water Tower

シカゴ大火の消失地域 <http://www.chipublib.org/004chicago/timeline/greatfire.html>



その後、シカゴ中心部は、鉄と石でできた高層建築が建てられるようになった。

ルイス・サリバンなどの「シカゴ派建築」の摩天楼が林立するようになる。

※ウェスト・ワシントン通りとラサール通りの交差点南西角にあるシカゴ証券取引所ビル (30 North LaSalle Street Building)。アドラーとサリバンが設計した 13 階建てのビルで、1894 年竣工。1930 年まで証券取引所として利用された。

site extinguished

●新しい移民の波

1870 年代～ 90 年代。新しい移民の波。ポーランド人、チェコ人、東欧系ユダヤ人、イタリア人など。東欧・南欧の貧困な農民が流入。ダウンタウンの周辺に民族的居住地を形成。シカゴは、荒々しく活力のある都市となっていく。

「都市が成長し、より古い住民が都市の外側に移住していくにつれて、中心地区はただちに新しい来住者によってみだされた。実際、彼らは空いた土地を手に入れたばかりか、たちまち密集と過密がいつそう激しくなった。1890 年までにシカゴの人口の 78 % が外国生まれか、あるいはその子どもたちであった。ほとんどの人びとは、この国にやってきたときには裸一貫で、大都市の生活に慣れていなかった。だから、彼らは、自分と同じ人びとと交友と慰めを求めた。もちろん、都市のある部分は、すでに強烈な民族的色彩を發展させていた。大量の新しい移民は、この傾向を加速した」(Mayer and Wade 1969, p.152)。

シカゴは、民族問題、貧困問題、犯罪問題などの集積地になる。——シカゴ学派都市社会学の舞台。

●コロンビア博覧会

1893 年、新大陸発見 400 周年を祝う万国博覧会「コロンビア博」が開催された。

会場は、シカゴ南部のジャクソン・パーク。

「ホワイト・シティ」と呼ばれる荘厳なユートピア都市を演出。



<http://users.vnet.net/schulman/Columbian/columbian.html>

「ミシガン湖畔の牛の品評会になるのではないか」という東部人の揶揄をよそに、2500万人の人びとが博覧会の興奮に酔いしれた。

博覧会の期間中に、1880年代からの好景気は終わりを告げ、アメリカ合衆国は不況に襲われた。シカゴでも失業者が溢れ、会場の外には「グレー・シティ」が広がっていた。

博覧会でシカゴを訪れた人びとは、ホワイトシティとグレーシティのコントラストに衝撃を受けた。博覧会はシカゴの社会問題を印象づける結果となった。

シカゴは、アメリカ資本主義の発展の善と悪を極端に見せつける都市となった。歴史家のブリッグズは、当時のシカゴを「衝撃都市 (shock city)」と呼んだ。

「ジュリアン・ラルフは、バーミンガムを『世界で最も良く統治された都市である』と述べているが、シカゴについてはつぎのように言っている。『大都市を見ようと期待している明晰な頭脳を持ち主なら、ここに、あらゆる前例のなかに彼らが探し求めていたものとは違ったものを見いだすであろう』と。それは、新しい現象、予兆、すなわち頭脳明晰な者が世界を理解しようと望むのならば訪れなければならない場所と考えられていた。同時にそれは衝撃都市であった。それは問題の中心地、とくに民族問題と社会問題の中心地であり、訪れる者にそれぞれ違った反応を喚起する場所であった。ラディアード・キプリングは、シカゴを見て『二度と絶対に見たくない』と言った。しかしW・T・ステッドは1894年に、シカゴが『世界の理想の都市』となるかどうかについて言うのは時期尚早だが、すでに『その機会足下にある……シカゴ市民は、自らの運命についての信頼に満ち満ちている』と述べている」(Briggs 1963, p.80)。

シカゴ大学は、コロンビア博覧会の前年、ジャクソンパークに隣接する場所に設立された。

(2) シカゴ大学

●ロックフェラー基金

1892年、ロックフェラーの寄付をもとに設立。ロックフェラーがハーパーに相談。

初代学長、ウィリアム・レイニー・ハーパー（イエール大）。

革新的な大学制度を構築。〈教育志向から研究志向へ〉。

●大学院大学

それまでは、アメリカの大学は教育中心。研究者になるためにはドイツに留学するのが一般的パターン。

19世紀後半アメリカ資本主義の発展。アメリカでの独自の研究が求められる。

→経済発展に見あった文化発展の必要性

+産業化・都市化にともなう社会問題の解決。

大学院大学としては、ジョンズ・ホプキンス大学、クラーク大学について3番目。

ジョンズ・ホプキンス大学（メリーランド州バルチモア）・・・財政難とリーダーシップの不在、東部の大学の追い上げによって挫折。ジョン・デューイやアルビオン・スモールはジョンズ・ホプキンス大学出身。

クラーク大学・・・1892年に大学とオーナーが対立して危機に陥る。このとき15名の科学者がハーパーの誘いに応じてシカゴに移る。

●シカゴの魅力

文化的威信は、東部に比べて低かったが、新しい都市文化を生み出しつつあった。伝統に縛られない、革新的で自由な気風があった。

1879年 シカゴ美術館——古典派と印象派の絵画のコレクション。

1891年 セオドア・トマスのシカゴ交響楽団。

シカゴ派建築——ルイス・サリバン（摩天楼）、フランク・ロイド・ライト（住宅）。

都市文芸——カール・サンドバーグ（シカゴ詩集）。



ロビー邸（フランク・ロイド・ライト） http://www.bc.edu/bc_org/avp/cas/fnart/fa267/FLW_robie.html

●ハーパーの手腕

給料を当時の平均の2倍にする。

教育負担を軽減して、大学院専任の教授ポストをつくる。

大学出版会を大学の機関の一部として設立。

●地元の都市とのつながり（社会改革運動）

バプティスト教会の基金を受け入れる（シカゴ大学の前身はバプティストの神学校）。

ハル・ハウスを中心とするセツルメント活動（牧師と上流階級の婦人）。

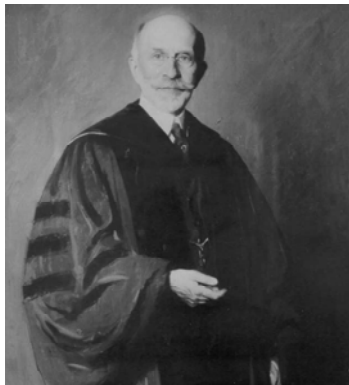
大学では、公開講座が設けられ、市政改革をめぐる議論が交わされる。

リベラル・プロテスタンティズムを背景とする社会改革の拠点となる。

（3）シカゴ大学社会学科

1893年設立。世界初の社会学博士を出す社会学科。

●初代学科長アルビオン・スモール（1854-1926）



バプティストの牧師の家庭に生まれ、バプティストの牧師として教育を受ける。

コルビー大学卒。ドイツに留学、政治経済学を学ぶ。

ジョンズ・ホプキンス大学で博士号を取得。

コルビー大学に勤める。やがて、学長に。学長の講義、道徳哲学を社会学に替える。

ハーパーからの打診を受け、社会学をやりたいと申し出る。

ハーパーは、この申し出を受けて学科長として採用。シカゴ大学社会学科が誕生。

<http://www.asanet.org/governance/small.html>

ハーパーは、同時に、同じバプティストの牧師で、社会事業の専門家であるチャールズ・ヘンダーソンを採用。

当時のアメリカ社会学は、スペンサー流の社会進化論が優勢。

サムナー（イエール大学）『フォークウェイズ』「モーレス」 大学院がない。

ギディングズ（コロンビア大学）『社会学原理』「同類意識」 権威主義的。

クーリー（ミシガン大学）『社会組織論』「第一次集団」「鏡に映った自己」 病弱で大学行政に無関心。

スモール ①社会科学をつうじて、社会改革を追求しようとする。

リベラル・プロテスタンティズムの科学的正当化をめざす。

②社会学の範囲を確定しようとする。

学問的影響力の点では、同時代の社会学者に劣っていた。

スモールの貢献 社会学を制度として確立した。

① 1895年 シカゴ大学出版会から、『アメリカ社会学雑誌 (American Journal of Sociology)』を創刊。

② 1905年 アメリカ社会学協会 (American Sociological Society) の創立に尽力。(今日のアメリカ社会学会 [American Sociological Association] とは別)。

③ 学生たちに、シカゴをフィールドとする調査活動を奨励。

→ヘンダーソンとの緊密な協力の下で学生を指導。

やがて、シカゴで育った W.I.トマスと G.ヴィンセントが教授陣に加わる。

● W.I.トマス



ヴァージニア州出身で、牧師の息子。

テネシー大学で古典を学ぶ。1886年、テネシー大学で博士号取得。

1888～89年、ドイツに留学。民俗心理学と民族学を勉強。

オーバーリン大学で英語を教える。スペンサーを読んで社会学に関心をもつ。

1893年、30歳でシカゴ大学に入学。

1896年、シカゴ大学で社会学の博士号を取得。1895年からシカゴ大学で教える。

<http://www.asanet.org/governance/thomas.html>

博士号取得後、ヨーロッパ旅行。このとき、移民の母国とアメリカでの移民の状態を比較するという着想を得る。

1908年、ハル・ハウスの女性相続人、ヘレン・カルヴァーから研究資金を受け取る。

ポーランド農民の研究を開始。1913年まで、毎年8ヶ月ほど調査旅行に出かける。

ワルシャワで、移民局に勤める哲学者、ズナニエツキと出会う。

1914年、ズナニエツキがシカゴに訪問。第一次世界大戦が勃発。ズナニエツキを共同研究者として『ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド農民』を執筆。

● 『ポーランド農民』

手紙、生活史などの分析をとおして、ポーランドからシカゴに移住した農民がどのように態度を変容させていったのかを記述。

伝統的な社会組織が解体することにより、従順な農民が、野心的で反抗的な態度を身につけていく。

社会組織の解体→伝統的な価値の衰退→新しい現実の経験（「状況の定義」）→新しい態度の発達→再組織化。（客観的な社会的価値と主観的な個人的態度の相互作用）。

「状況の定義」——社会的価値と個人的態度についての個人の意識（反省過程）。

① プラグマティズム：活動経験によって意識が変化していく。

② 個人的態度と社会的価値の相互作用という社会学的な分析視点。

- ③リベラル・プロテスタンティズムの科学的正当化から、自立した学問分野としての社会学への脱皮。
- ④社会組織の解体が、犯罪や非行を生み出すというシカゴ学派の視点（社会解体論）。
- ⑤シカゴで最初の本格的な経験的研究。シカゴ社会学のさきがけ。

●パークとの出会い

1912年、トマスは、タスキーギでの人種問題会議に招待され、そこでロバート・パークと出会う。パーク——1920年代のシカゴ学派都市社会学の指導者。

トマスは、パークと意気投合して、パークをシカゴに招聘。

パークは、1913年からシカゴ大学で非常勤講師として教えはじめる。

●1910年代の世代交代

スモール、ヘンダーソン、ヴィンセント、トマスの「ビッグ・フォア」。

1911年、ヴィンセントがミネソタ大学の学長に就任。

1915年、ヘンダーソン死去。

1918年、トマス、スキャンダルで解雇。ニューヨークに向かう。

代わって、1913年、パーク（非常勤）

1916年、アーネスト・バージェス（シカゴ大社会学卒）。

1919年、エルスワース・フェアリス（シカゴ大心理学卒）。

1920年代のシカゴ大社会学の陣容が出そろおう。

（4）シカゴの発展とシカゴ社会学

19世紀後半、アメリカ資本主義の発達。都市化の進展。

アメリカ人の生活形態が変化。都市にさまざまな問題が噴出した。

リベラル・プロテスタンティズムを背景とする慈善活動や社会改革運動。

大学も、教育志向から研究志向に転換。シカゴ大学は最初の成功例。

シカゴ大学は、プラグマティズム哲学の拠点となる。

また、世界最初の社会学科をつくる。経験的調査研究に志向。

やがて社会改革主義から客観的な因果連関を重んじる科学的な社会学へと脱皮。